

知立市まちづくり委員会

つながる、ひろがる、つくりあう。

平成28年度最終報告会

2017年2月22日（水）19:00～21:00

会場 中央公民館 中会議室

市民の市民による市民のための

まちづくりについての調査・研究

まちづくりって何だろう

仕事と私事で忙しく、市事は他人事と
まかせっきりにしてきた、まちづくり

地域に出て、実際にやってみて、初めて自分事になる

我々は「知立市まちづくり委員会」がきっかけで出会い、
まちづくりに取り組みました。

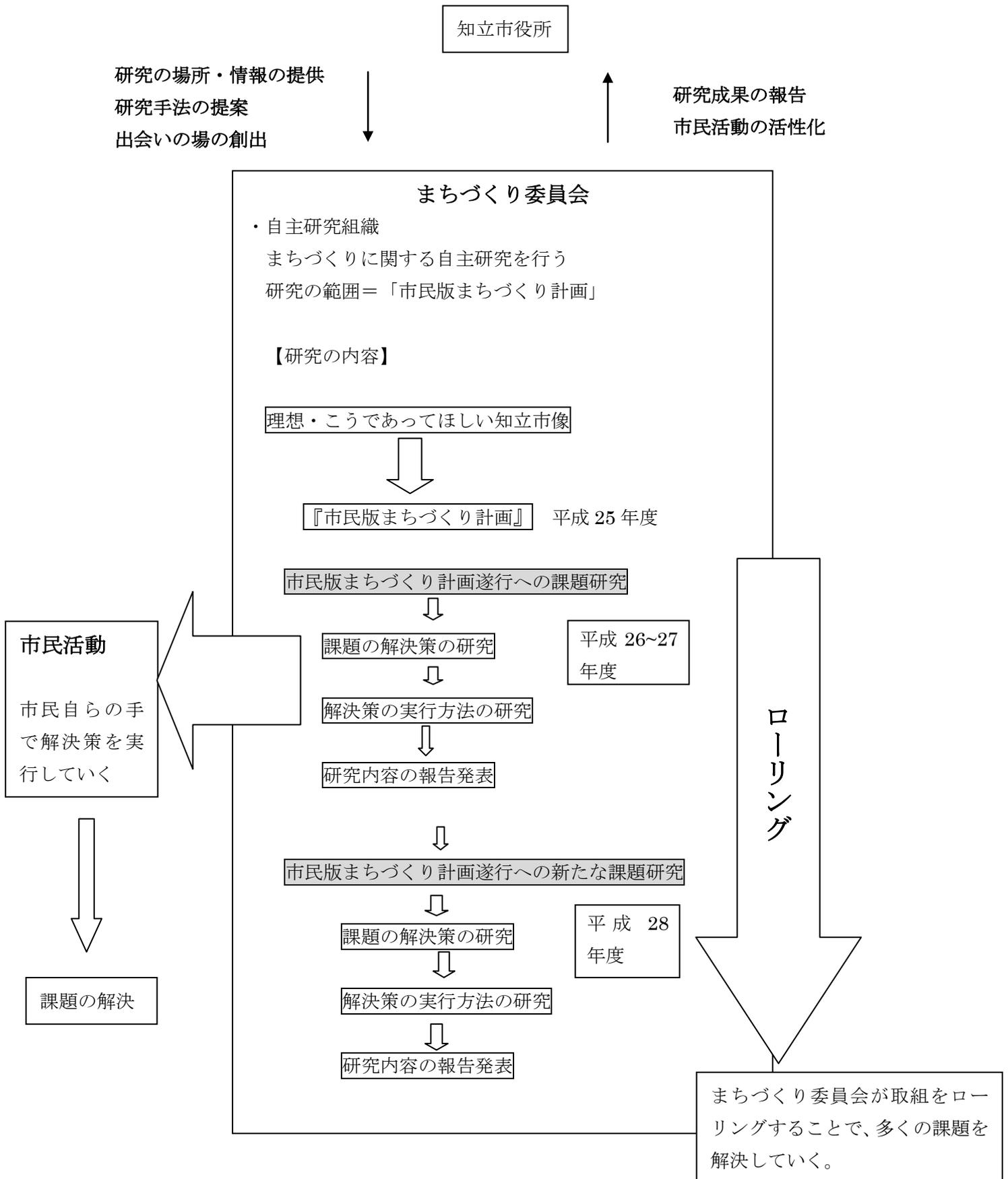
市民が地域にできるきっかけさえあれば
可能性にあふれる市民により、まちをもっとワクワクさせられるのでは。
それがまちづくりにつながるのでは？

この可能性を信じ、研究をしてきました。

次第

- 1 市長 あいさつ
- 2 最終報告書 提出
- 3 プロジェクトレポート
・市民活動 フェスタ de パルケ
- 4 個人レポート
- 5 市長講評
- 6 委員長あいさつ

まちづくり委員会の活動と位置付け



知立市まちづくり委員会がきっかけとなり生まれた、多様性あふれる活動

バザール知立

弘法通の活性化
のため、軽トラ市
を開催

CHIRYU 輝 PROJECT

知立市の魅力を
SNSを通じ発信

知立観光 pr プロ ジェクト推進会 Go いっしょ

知立の観光推進に市
民の手で取り組む

まちのオアシス

赤ちゃんからお年寄
りまで、ふらっと立
ち寄れる場づくり

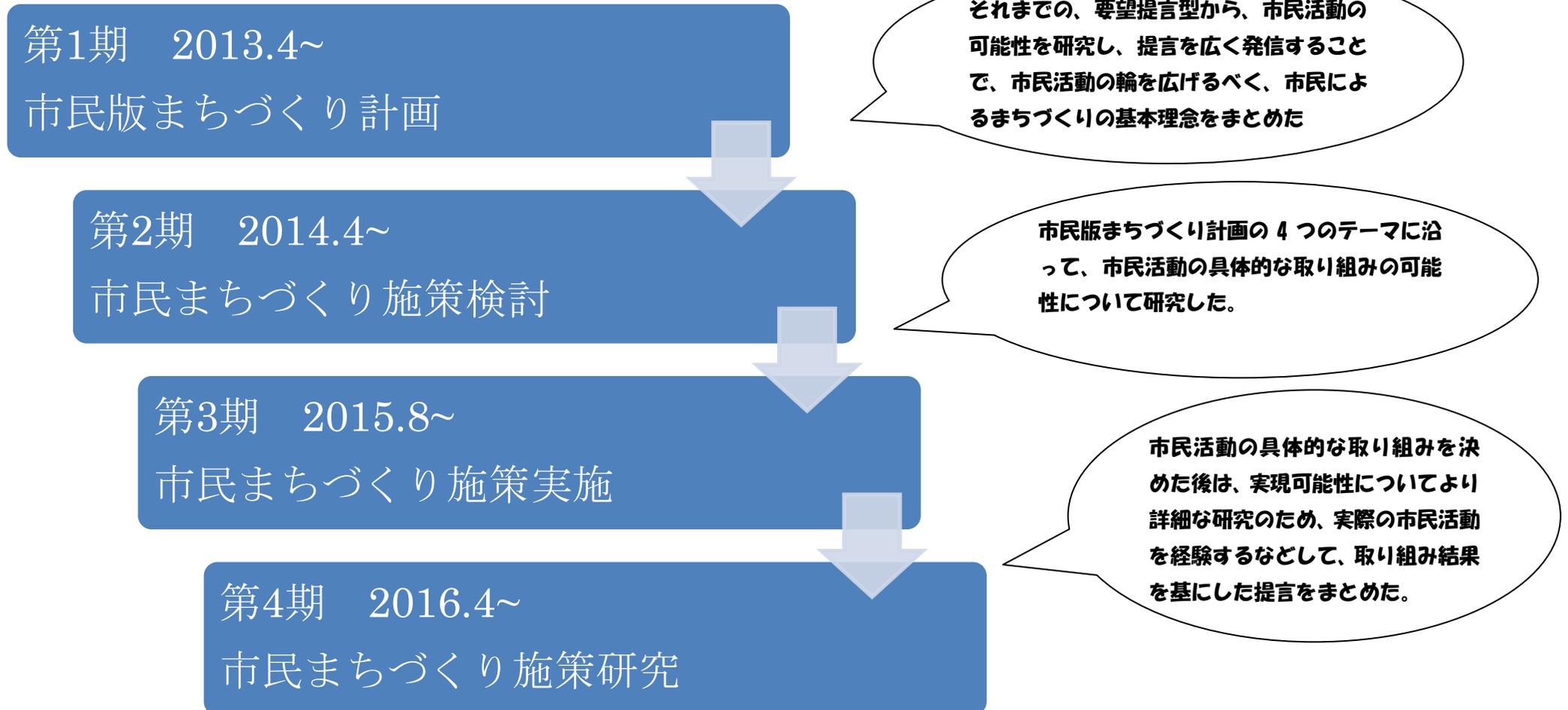
池鯉鮒塾

知立について、
自ら学び、実践
する

フェスタ de パルケ 実行委員会

子どもと地域の大人
の交流の場づく
り

知立市まちづくり委員会の市民活動研究型への転換のプロセス



まちづくり委員会 平成28年度のプロセス

5月

- ・ 市民版まちづくり計画の研究：4つのテーマ
- ・ 知立駅を活かしたまちづくり
- ・ 市外の人が何度も訪れたいくなるまちづくり
- ・ 住民の手でまちづくりを進める知立づくり
- ・ 地域で子どもを育む知立づくり

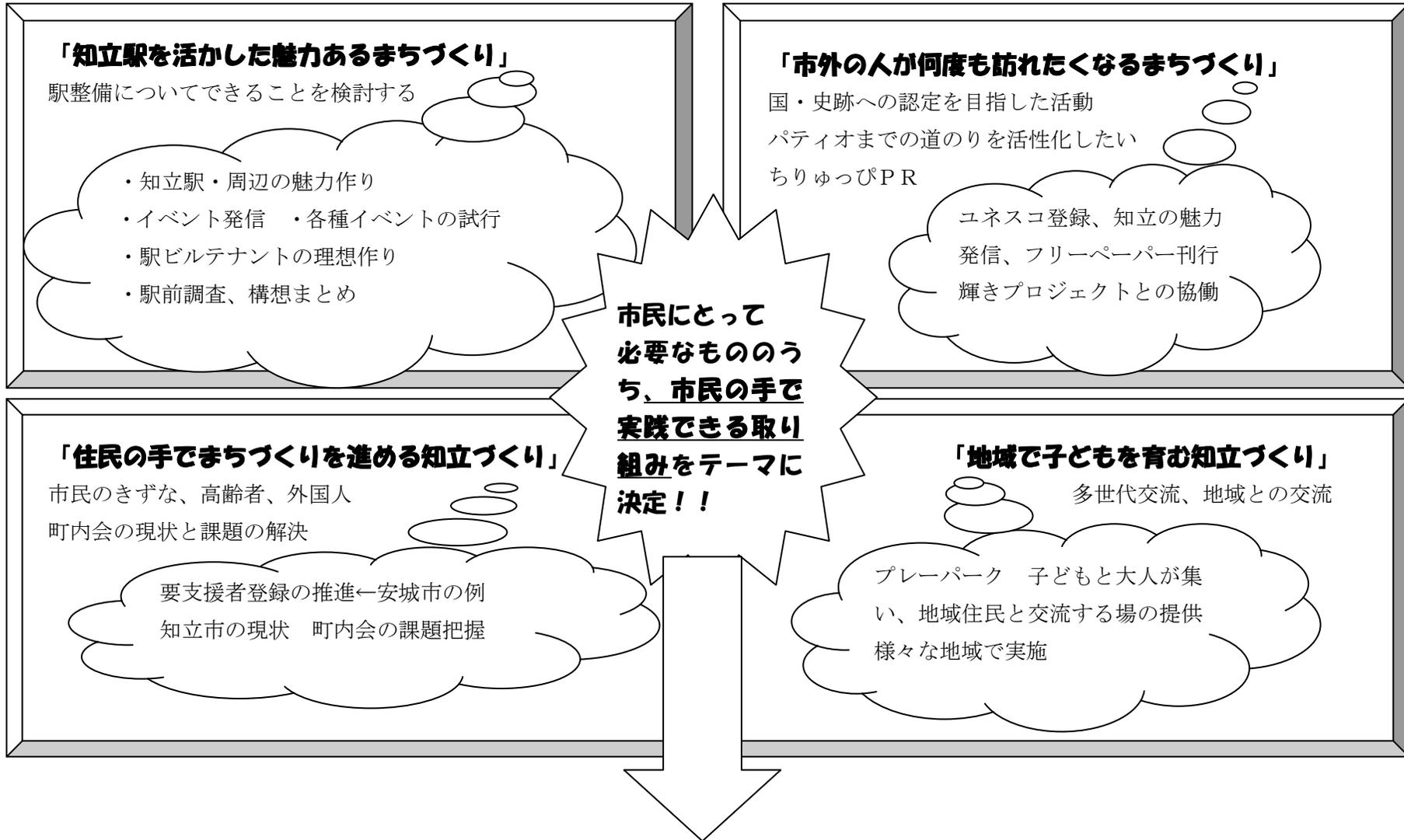
6月

- ・ 各テーマの可能性について検討
- ・ 知立駅を活かしたまちづくり：駅前の魅力について発信
- ・ 市外の人が何度も訪れたいくなるまちづくり：観光
- ・ 住民の手でまちづくりを進める知立づくり：プレーパーク
- ・ 地域で子どもを育む知立づくり：町内会・要支援者登録

7月

- ・ 平成28年度まちづくり委員会研究テーマの決定
- ・ 市民に必要なことを、市民が市民の手で実現するための研究を行う

5~6月 まちづくりの可能性について検討する



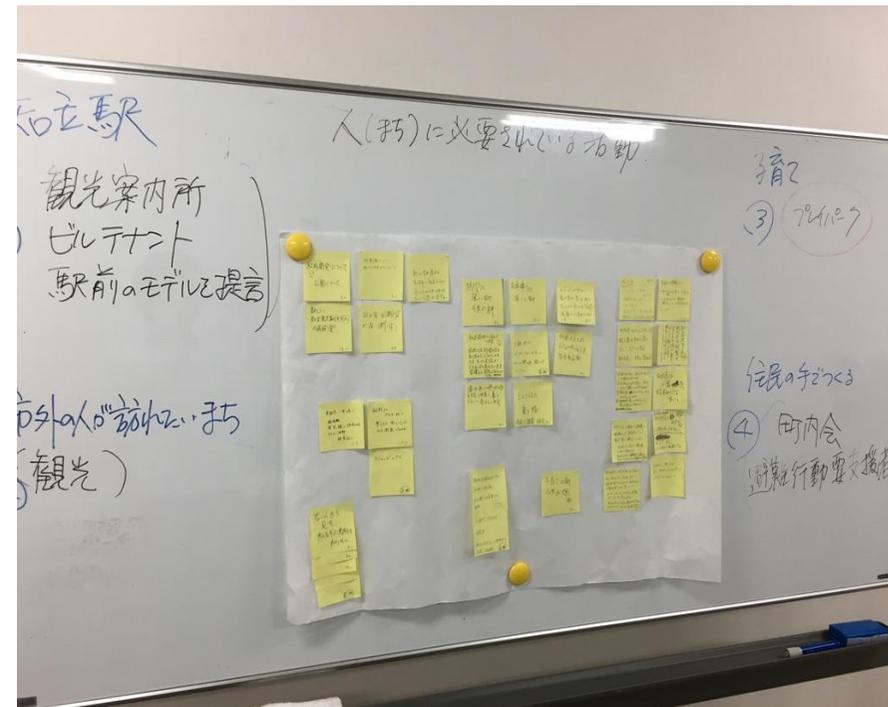
7月 平成28年度まちづくり委員会テーマ決定

テーマは「地域で子どもを育む知立づくり」に決定！！

駅前プロジェクト案…駅前再開発に合わせ、居酒屋ばかりになった駅前を魅力的にかたちづくるプロジェクトを立ち上げ、観光案内所設置、ビルテナントの要望調査、駅前モデルの提言など実施したい。←一部市民の偏りが出てしまったり、継続的ではないといった意見も。例えば駅前の魅力発信活動や、駅前の空き店舗を活用したフリースペースや交流サロンなど、継続的な活動の可能性も探った。

町内会の課題検討案…町内会に魅力がなく、形骸化している原因を検討。情報伝達、ゴミ分別など、必要性はあるが、若者の関心がない。また、町内会により活動内容が変わるので不公平感もある。例えば、転入者に町内会の魅力・メリットをPRしたり成功事例をモデルケースにし、新たな成功事例を積み重ねる等研究していきたい。←市民活動の限界がある

観光PR…観光分野・知立市の取り組みなど、まだまだPR不足の部分があるので、冊子を作成したり、インターネットを利用して、市民が知りたい情報がすぐに手に入れられるようなPRをしたい。人を観光資源にするような観光戦略を打ち立てたい。←観光については、行政が観光計画に沿ってやっていく予定。PR活動するグループが、駅前イベント継続していくような市民活動を検討。



プレーパーク…神社や公園などで子どもに体操をさせたり、そこで飲食をしたり、そういった場で、大人も地域の人と交流できればいい。働く世代が参加できる時間ではないが、子どもと高齢者が参加できれば、自主性に任せた遊びを提供する。←市民の手で出来る取り組みに思える。

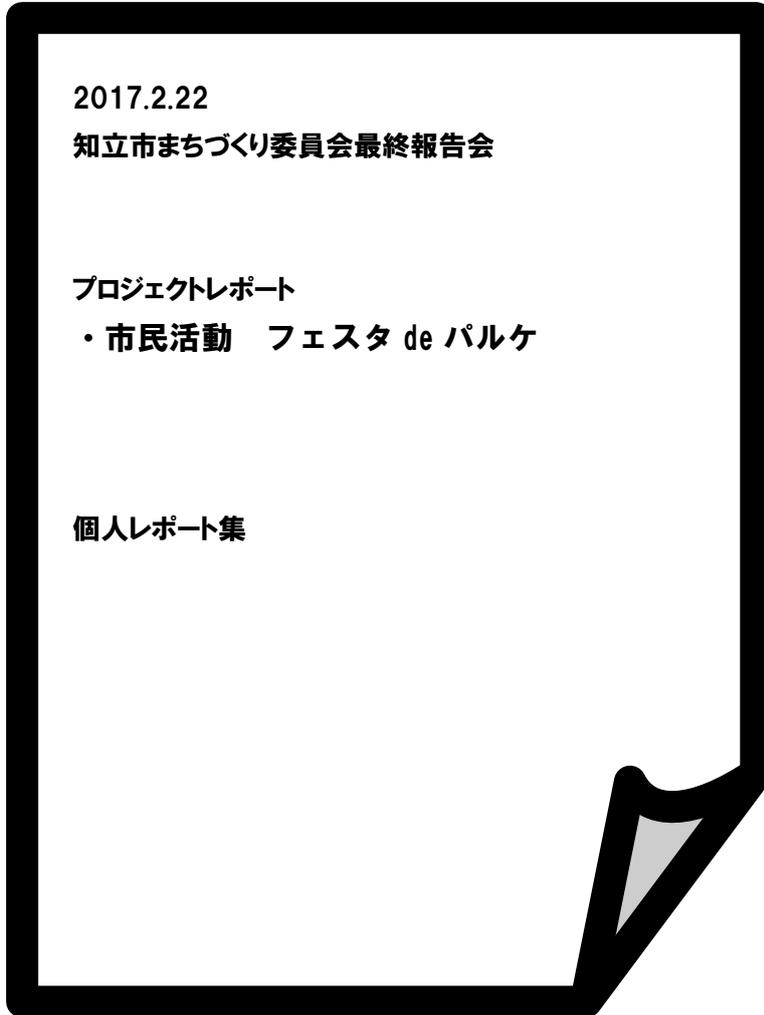
2017.2.22

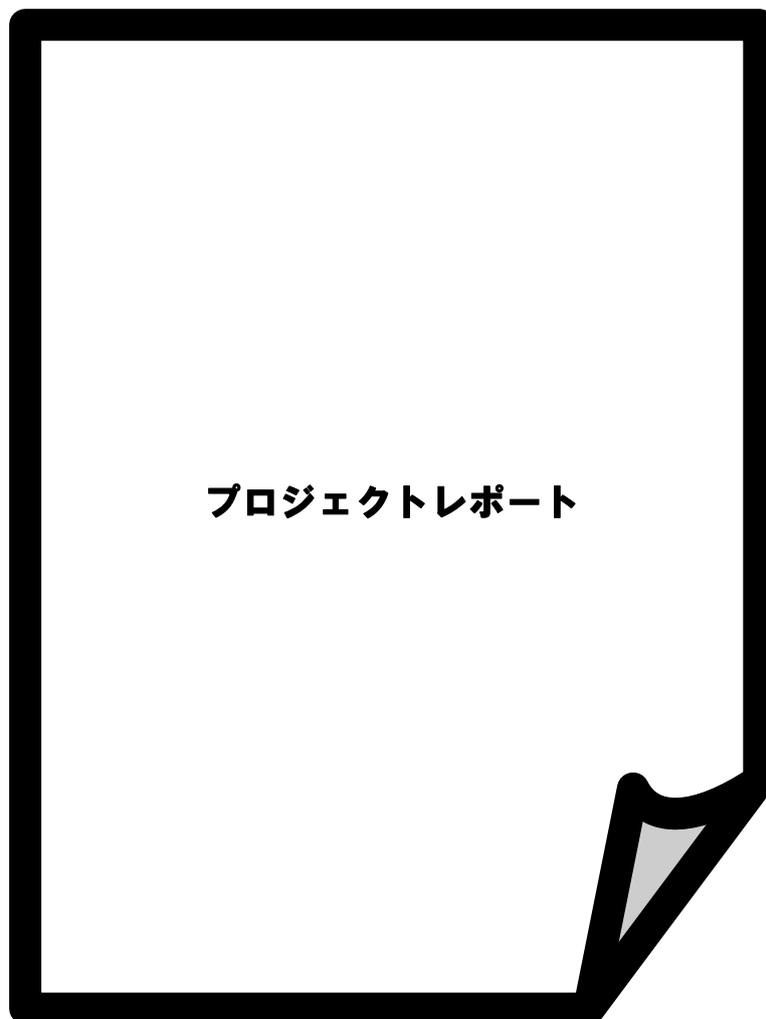
知立市まちづくり委員会最終報告会

プロジェクトレポート

・市民活動 フェスタ de パルケ

個人レポート集





プロジェクトレポート

プロジェクトレポート

プロジェクトテーマ

- ・ 地域でこどもを育む知立づくり

目的:

・外遊びを通して、子どもの自主性・協調性・思いやりなどを育むと共に、地域の大人も一緒になって子どもと遊び、世代間の交流を図りつつ、地域の子どもの成長を見守る。

開催地の選定:昭和6号公園

- ・ 子供たちが外で遊べる環境づくりを、どこで実施するかという議論の中で、知立市は愛知県で外国人居住者比率が一番高く、人口の約5%(3,500人)にも上り、昭和地区に集中している点に注目した。
- ・ 知立市は多文化共生社会に向けて、この地区で「昭和未来会議」を立ち上げている。まちづくり委員会としても、昭和地区での開催は市の考えに沿ったもので、委員多数の合意でこれを選択した。

目的達成のための手段・方法:

a. 実行委員会の立ち上げ

- ・ 本プロジェクトを実行するために自主運営組織を立ち上げた。
- ・ 組織名:フェスタdeパルク実行委員会
- ・ メンバー: 10名
委員長 :伊東 肇
副委員長:横山泉
委員:青木順子、岩瀬貴子、兼子しづ江、川嶋太久郎
近森政己、夏目汐里、西尾賢一、服部薫、横山泉

フェスタdeパルク ~Festa de Parque~

ポルトガル語で「公園のお祭り」の意。

昭和地区はブラジル人の在住者が市内では一番多いことから名付けた。

b. 開催準備

- ・ 公園利用状況および聞き込み調査。
公園利用:土曜日、日曜日の午前、午後の利用実態の確認のため現地実地調査した。

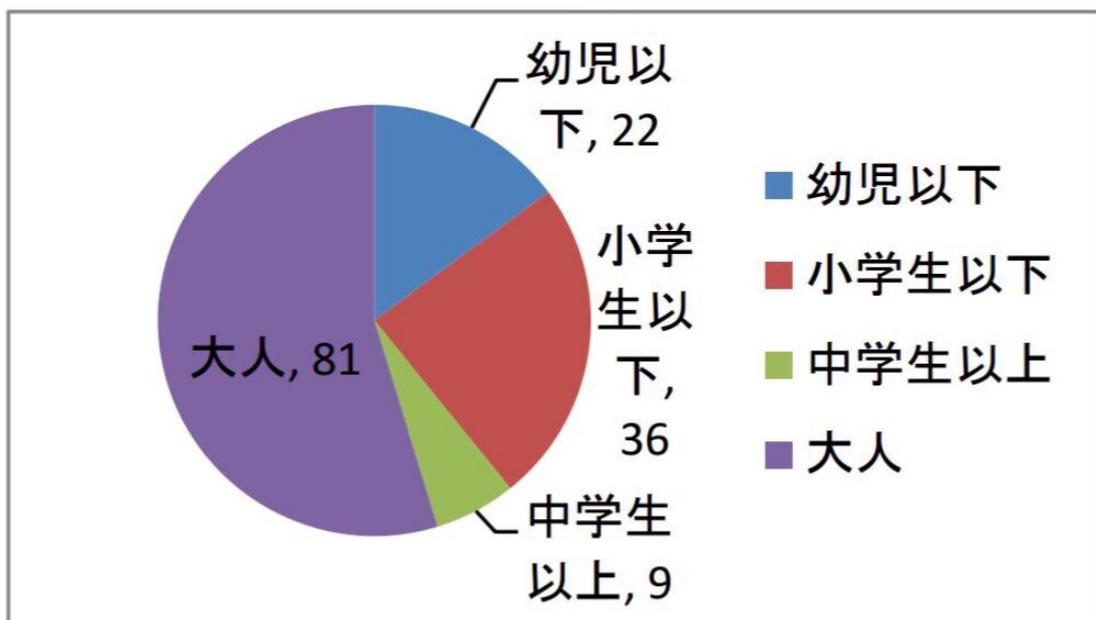
- ・ 東小学校校長に
子供たちの交流についてご意見を伺った。開催趣旨に賛同、協力を得ることが出来た。
- ・ 実施内容の検討
遊びの内容:シャボン玉、ポックリ、竹馬、竹とんぼ、
じゃんけん、ロープ渡り、綿菓子、ポップコーンのプレゼント。

○公園利用実態調査結果

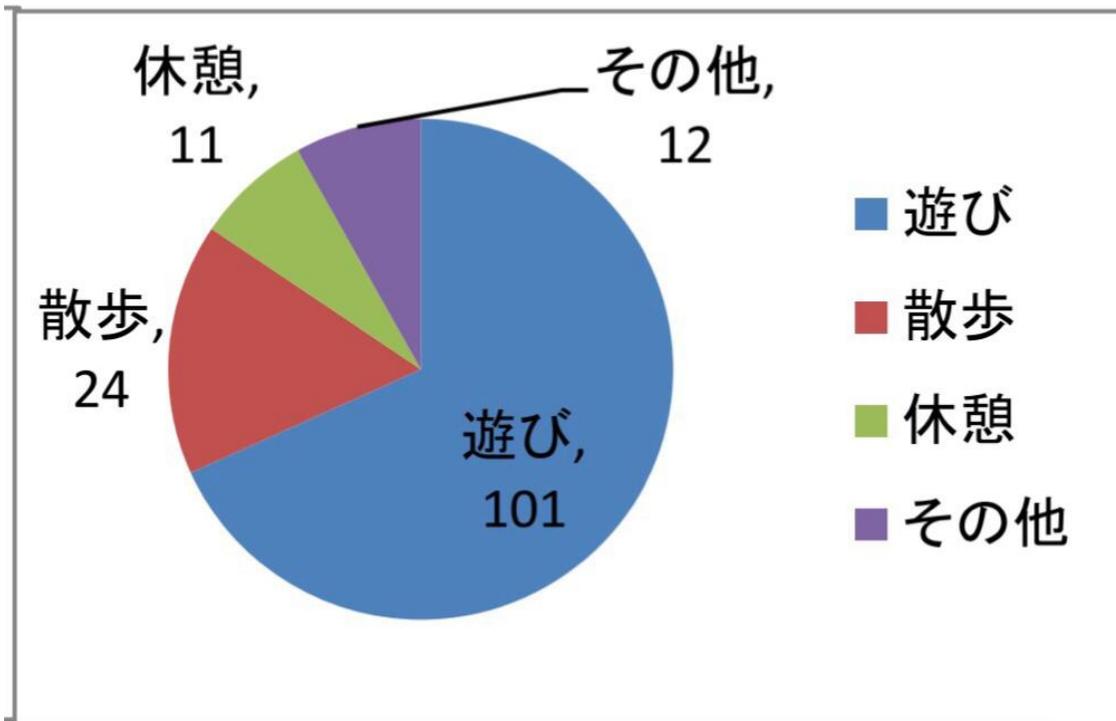
日時別利用者内訳

調査日		年齢別利用者人数				合計	調査担当
		幼児以下	小学生以下	中学生以上	大人		
9/10(土) 天気:晴れ	午前	2	4	0	24	30	服部、横山 近森
	午後	2	3	0	4	9	
9/11(日) 天気:晴れ	午前	10	5	0	20	35	岩瀬、青木 兼子夫妻
	午後	7	19	0	71	97	
9/24(土) 天気:雨	午前	3	5	0	12	20	服部、横山 青木、夏目
	午後	雨で調査中止					
9/25(日) 天気:晴れ	午前	15	24	9	41	89	伊東 -
	午後	調査担当不在					
10/1(土) 天気:晴れ	午後	10	22	10	14	56	青木、夏目
合計		49	82	19	186	336	

年齢別グラフ



内容別グラフ



c. 広報活動

- ・ チラシの作成
 チラシ裏面にポルトガル語でお知らせ。
- ・ ポルトガル語の翻訳
 昭和地区にある喫茶店主に翻訳の協力を得た。
- ・ 中日新聞への取材依頼
 「知立くらしのニュース」で紹介されました。
- ・ 自治会にも開催趣旨を説明、
 理解していただいた。
- ・ 市役所および教育委員会へ後援申請。
- ・ チラシ配布:
 東小学校、なかよし保育園、高根保育園、さくらんぼ保育園、中央公民館、メープルけやき、
 市役所こども課、戸別訪問など。

d. イベント開催:

- ・ 開催日: 2016年11月12日(土曜日) 13:00~15:00

・各イベントコーナーの担当者配置:

受付	:西尾、服部	ポップコーン	:青木	饅菓子	:伊東
じゃんけん	:夏目	竹とんぼ	:川嶋	竹馬	:近森
シャボン玉	:兼子	ポックリ	:岩瀬	ロープ	:横山

目標:

1. 来場者数 :100人
2. 親の参加割合 : 50%
3. 子供の外国人参加者数 : 50人
4. 来場者満足度 : 60%
5. 事故 : 0件
6. ご近所さんのお年寄りの数 : 10人 (半年先の仲間として)

結果:来場者人数は140名

	目標	結果
1. 来場者数	:100人	→ 140人
2. 親の参加割合	: 50%	→ 80%
3. 子供の外国人参加者数	: 50人	→ 60人
4. 来場者満足度	: 60%	→ 100%
5. 事故	: 0件	→ 0件
6. ご近所さんのお年寄りの数	: 10人	→ 16人

考察

- 1、ほとんどの委員が、このようなイベント開催の準備は初めての経験ということもあり、定例会議のほかにも会合を持ち、メーリングリスト等も使って、意見交換を繰り返し合意形成に努め実行したことは協働作業に大きな効果があった。
- 2、外国人としては一番多いブラジルの人に開催を告知するために、ポルトガル語を併記したチラシを作成するなど工夫した。
また、チラシを東小学校、なかよし保育園などに配布し、更に開催前日に戸別訪問で参加を呼びかけた。
その活動効果もあって140名もの参加者があった。
- 3、初回開催としては目標を達成した。
次回は準備段階の反省を踏まえ、地域で活動する学校PTA(おやじの会)等や自治会と企画段階から意見交換を行い、

一度フェスタdeパルケを見学してもらい主旨を理解してもらうことが、今後の活動を継続する上で重要と考える。

- 4、参加者が目標を大きく上回り、コミュニケーションの場づくりとしては成功した。
外国人父兄の参加も多く、昭和地区での開催は多文化共生に寄与できたと思う。



個人レポート集

名前 兼子しづ江 職業：自営業の妻 市内在住年数：44年

一言コメント 人に対して、自分ならこんなふうにしてもらいたいと思う気持ちを、そのまま相手にしてあげられるような優しい気持ちと真心で接していきたいものです。

参加理由

・平凡な主婦でも誰でも、この町に住んでいる限りは、市政に関することに無関心でいるのは市民としてあまりにも無責任だと日頃から思い感じていました。

何か起きてから、大騒ぎして行政対応非難するのではなく、誰もが周りの情報に耳を傾けて、市政に関心を持ち、何事もみんなで知恵を出し合って、用意周到に今を大切に生きていくのが市民として義務ではないかと思うのです。

私も今までは、自営業の夫の手伝い、家事、子育て、舅、姑の介護と目まぐるしい生活に追われ、自分のための時間もなく、睡眠時間もかなり少なく生きてきました。

だから当然のごとく市政などにかかわる時間など全くなかったのですが、いつも心の隅に気にはかかっていた、何もできない力不足の自分が心苦しかったのです。

何かの機会があったら、参加しなくてはと思っていたので、やっとその機会をいただけ、ここに参加したというわけです。

気づきと変化

今やっと、自分の時間が持てるようになり、まちづくり委員会にも自由に参加できるようになり、はや10年になりました。行政側の事情も少しは分かりましたが、それでも何か変？という疑問、疑惑は今もまだ解けません。このまちづくり委員会にもいろいろな方々が、参加され、まるでサジを投げるように、出没してしまう陰には問題点があるようです。今年は、委員会が市民と一体になって、パルケを開催してみたことは非常によかったのではないかと思います。委員の皆さんが、自主的に、ご自分の時間をさいてまで、責任感と連帯感を持って実行した事は、次回にも大きな可能性と期待がもてました。

期待と今後への活かし

市民で構成するまちづくり委員会の積極的な活気ある行動の一步に行政側も二歩、三歩と踏み出して、多くの情報を収集して、市民とともに新たな可能性を追求、模索し、助言し、知立市をみんなの手で力いっぱい成長発展させていってほしいと思っています。

ここに参加して 改めて、愛すべくわが町はみんなの手で、みんなの思いで守らなければと思いました。市民誰でも一度はまちづくり委員会に参加され、いったいこの町の何が欠けているのか、いろいろ闊達な議論を交わし、市民と行政の手で市民参加型の市政になることを期待します。

名前：川嶋 太一郎・職業：会社員・30代・市内在住約3年

一言コメント：みんな“知立(ともだち)”

参加理由

私は、以前から知立市に住んでいた訳ではありません。しかし、今は知立市に住んでいる一人として、知立市は東海道の宿場町として栄えた歴史や、知立祭り・八橋かきつばたなどの観光、そして名鉄知立駅の連続立体交差事業をはじめとする駅前の再開発があり、とても魅力的なものがたくさんあると思います。

しかし、そんな知立市も全国的にみるとほとんど知名度もありません。知立まつりもユネスコの世界遺産に登録されましたが、今後観光として発信していくには、市をあげた取り組みが必要だと思います。例えば、知立まつりは市内で祭りに関わっている人は詳細等わかるとおもいますが、市内でもそれ以外の人や、市外・県外の人には情報があまりにも少ないと思います。まずは、市民一人ひとりがわが町の観光資源や歴史的背景・今の知立市の現状を知る必要があると思いました。そこで、私はまちづくり委員会に参加することで、少しでも課題や現状がわかるかと思い参加しました。

気づきと変化

今年は「地域でこどもを育てる知立づくり」という観点から進めていく事になりました。現在は、知立市も新しい家庭が増え、全国的には人口減少にある中で少しずつ増えています。また知立市は、県内でも高い外国人率となっており、特に東小学校においては、約6割が外国の子供が在籍しております。犯罪が増えることも考えられ、距離を置きがちになりますが、そこで暮らす多くの方は普通に暮らしています。さらに子供たちは、国籍など関係なく共に学び、遊び暮らしています。そんななかで、まちづくり委員会では、昭和地区に焦点をおき、地域で子供を育て、誰もが遊べる場を設けようと「Festa de パルケ」というイベントの開催をしようと進めてきました。準備にあたっては、東小学校の先生や、昭和団地自治会の方にも協力を頂き、今知立市で始まっている、「ぷれーぱーく」を参考にさせて頂きながら、どうしたら、子供たちに楽しんでもらえるかを考えて行いました。当日は、多くの子供たちに参加してもらい、中には外国のご家族にも用意した“あそび”を楽しんでもらえました。

期待と今後への活かし

ここで感じたのは、国籍がどうかということとは関係なく、子供は地域や社会で見守り、育てていく事は可能だということでした。今後、せっかく第1回として始めたこのイベントを定期的開催できないかどうかを議論していくと共に、子供を地域で育てるということを市民一人ひとりで何ができるのかを追及していく必要があると考えます。

名前：西尾 賢一 職業：会社員 60代 市内在住約67年

一言コメント：パルケ実行委員会を通じてきずなができた

参加理由

知立市の発展のため少しでも役立ちたい。

気づきと変化

頭で考えている事と、実際にやってみると、いろいろなことが見えてくる。

期待と今後への活かし

本活動の継続

名前：横山 泉

一言コメント：まちづくりは市民と市役所の協働作業ですすめましょう

参加理由

まちづくりのお役に立ちたいと思って参加しました。

昨年の委員会活動では、市役所と市民の協働認識に大きな溝を感じましたが、今年、これを何とか埋めたいと思って再度参加しました。

気づきと変化

- ・今年とは違い市役所の企画政策課担当者がリードして下さいました。まちづくり委員会とは別に「フェスタ de パルケ実行委員会」をすぐに立ち上げる出来たのはよかったです。

期待と今後への活かし

- ・委員と市役所が協力して、11月に昭和地区でイベントを開催出来たことは大きな収穫でした。これからも市民と市役所の協働作業でまちづくりを推進できればと期待しています。

名前：岩瀬 貴子

一言コメント：まちづくりについて考えることができたこと、そして実行できる委員に出会えたことがよかったです。

参加理由

知立市に住み、子どもを持つ母親として、今年度のまちづくり委員会のテーマのひとつである「暮らしやすい地域づくり、地域で子どもを育む知立づくり」ができるようになればと思い参加しました。

気づきと変化

委員会参加者の年代も幅広く、またそれぞれの思うテーマがあるため、まずは委員内のコミュニケーションを取ることが大事であると考え、情報共有をするために会議のほかにも話し合いができる機会を設けるようにしました。話し合いを進める中で、一つのテーマに決めることができたように感じます。

私は今年度初めての参加ですが、前年度までの事務局側との方針が異なった部分があるようで、まちづくり委員会とはどういう活動なのか明確ではなかったため、戸惑う場面もあり、事務局と委員とのやりとりで少し時間を要したように感じました。活動する上で、まちづくり委員会という名称をだしてはいけないことなどがあり、何が市民のために必要か、その中で市民の手で実践できるものは何か考える上で、活動しづらい面もあったように感じました。

事務局からは活動するにあたり、目標（値）を定めるよう指示がありました。

まちづくり委員会に参加したという自己満足で行うのではなく、市民の力を生かしていきたいと思っております。委員のみなさまにはご多忙の中、時間を共有していただき事務局担当者様にはご意見をいただきながら一緒に活動できましたことをうれしく思います。

期待と今後への活かし

まちづくり委員会を通じて集まった仲間たちとともに、フェスタ de パルケ実行委員会を立ち上げ、第1回を11月に昭和6号公園で行うことができました。

外で遊ぶこと、室内ではなく外に出ることの楽しさを子どもも大人も感じていけるようにしたいと思います。

昭和地区は多文化共生地域で言語や慣習について知らなかったことがたくさんあり、学ぶべきことが多かったです。開催にあたり、周知、広報活動も重要であると感じました。昭和未来会議も参加し、様々な意見を伺うことができたことも良かったです。

今後、継続的に行い、地域の定着化を図り、私の参加理由であった地域で子どもを育む知立づくりにつなげていければと思います。

昭和地区に限らず、知立市内のほかの地域でもこのような活動ができると良いと思っています。

子どもは、父親、母親、家族に加え、いろいろな方に、ご協力をいただき見守っていただきながら、地域で育てていくことは大切であると思います。

それがまちづくり、地域の活性化につながると期待しています。

名前：伊東 肇 職業：無職 シルバー人材センターで時折仕事している。

年代：72才 ・市内在住年数：市内在住 約35年

参加理由

私がまちづくり委員会活動に参加したのは友人に誘われたのが動機です。私は10年ほど前に参加していたことがあります。当時が提言をすることが主体でした。5年ほど続けましたけが今一つ物足りない思いがあり、委員会をやめました。当時の仲間3人で集まり何ができるかを話し合ったことが、バザール知立の“弘法笑店街 道の市”活動です。現在では毎回50店舗以上の出店がある軽トラ市に育ちました。

そろそろ次の活動をと考えているとき、当時の仲間から誘われました。

気づきと変化

今回委員の多彩な顔触れに驚きました。町内会長を務めた人・定年退職して間がない人・現役のサラリーマン・子供が大きくなって、そろそろ自分の時間が持てるようになった主婦・子育て真っ最中のお母さん・現役の大学生など。

それだけに最初は皆さんの意見が一つの方向に向いていくようになるのか心配しました。

テーマの絞り込みに時間をかけて議論を重ねました。方向が決まったのが8月。フェスタの開催が11月12日と決まってからの活動は、当事者の私でさえ吃驚するほどの動きでした。1週おきでは間に合わないとして、間の週には別の場所で会合を重ね準備してきました。

いろいろ勉強をしました。手続きを踏まえること・人間関係を大切にすることなど。

まちづくり委員会ではフェスタdeパルクは開けないというので、フェスタdeパルク実行委員会を立ち上げチラシを作り、市役所と教育委員会に後援をお願いに行きました。

「フェスタdeパルク実行委員会はどんなことをやる会ですか。何を目指しているのですか。どんな人たちがやっているのですか。」いちいちご尤もです。慌てて規約を作り・名簿を作成し・指針を作りました。チラシをブラジルの大人に方にも読めるように、翻訳をお願いする過程で地元の自治会と話し合いが必要なことを気づかされました。

色々ありましたがとにかく、第一回の開催日を迎えました。当日は、子供の参加が100人以上、親の参加が30人以上と、大盛況でした。

期待と今後への活かし

今後、昭和6号公園でフェスタdeパルクが定例的に開催できるようにしていきたいと考えています。そのためには、昭和地区の町内会・自治会・学校のおやじの会・老人会との話し合いの機会を作っていきたいと考えています。

名前：夏目汐里 ・職業：大学生 ・年代：20代 ・市内在住年数：21年

一言コメント 知立はともだち。

参加理由

もともと自分の住んでいる地域のまちづくりに携わりたいと思っていて、今大学でまちづくりについて学んでいます。その学んだことを実際に自分の住んでいる地域に生かしたいと思っていたところ、ちょうど広報ちりゅうにまちづくり委員の募集が載っているのを見て、応募しました。まちづくり委員はテーマ決めから始め、何をするのか、どうやってするのか、一から自分たちで決められるところがいいと思いました。学校にもボランティアの募集はいくつかありますが、まちづくり委員は市内在住の人が応募の条件であり、知立市を良くしたい、という志を持った人が集まりそうだったのと、いろんな年代の人と出会えるのもまちづくり委員に参加しようと思った理由です。

気づきと変化

まちづくり委員会には自分とは異なるいろんな世代の方がいるので、自分が普段気づかなかった視点や市の改善点に気づくことができました。最初まちづくり委員会の活動のテーマを決める際に町内会のことも案にあがったのですが、町内会についてそのとき初めて知ることが多かったです。まちづくり委員会での話し合いを通していろんな考えや視点を知ることができました。

また、今年度の活動では地域での子育てを趣旨として、公園で昔遊びなどいろんな遊びを行い、地域の交流の機会をつくるイベント、フェスタ de パルケを開催しました。今回は昭和6号公園で試験的に行ったのですが、予想以上に多くの方々に参加していただきました。イベントを開催する前に昭和6号公園の利用状況の調査をしたのですが、知立団地の中にあり住宅地にある他の公園と環境が異なるからか、他の公園よりも普段から利用者が多く感じました。

期待と今後への活かし

フェスタ de パルケに別々に来た子供が仲良く遊んでいるのを見て、こうしたイベントを続けることで地域のつながりが広がるのではないかと思いました。今年度のまちづくり委員だけでは継続は難しいので、この活動の趣旨を理解し賛同できる市民の方が活動に加わり、今後他の公園でもイベントが開催できればと思っています。

名前：青木 順子・職業：主婦・50代・市内在住30年

一言コメント：知立市民が、「住むなら知立」と誇れる街になれるよう、微力ではありますが、自分の思いを届けたい！！



参加理由

知立市は、古くから交通の要衝として栄え、鎌倉時代に整備された鎌倉街道や江戸時代には、東海道39番目の宿場町である池鯉鮒宿として繁栄し、馬市で有名であった。

今でも江戸時代の東海道の跡を市内のあちらこちらで見ることができる。しかしながら今では、歴史を感じられるものも残念な環境におかれ、対外的にもお勧めできる状態ではないと歩いて感じた。「伊勢物語」の中で在原業平が三河八橋に於いて、めでたゆかりのかきつばた・東海道の松並木と、歴史的にも誇れる素材があるにも拘らず、カキツバタの花は毎年咲きが悪く、東海道松並木は、両サイドが工場となり、伊勢湾台風で70%以上の倒木の被害を受け、減少した松並木を、地元の郷土史家の先生を中心に保存運動を起こされ、昭和45年に補植され、多くの人々の努力で守られた松並木の側道に先生の思いと反した野外彫刻が設置され、昔ながらの風情が消えつつあり、お勧めの観光地とは程遠いものだと残念でなりません。もっと市民の声に耳を傾けてもらいたいと言う思いもあり、まちづくり委員会に参加した。この委員会は、提案・提言を行政にするものとはばかり思っていたが、市民版総合計画を基に市民の手で市民ができること考えていくものでした。

観光に関することもやりたかったが、今回、『地域でこどもを育む知立づくり』がテーマに決まった。

家族の形態や生活様式は大きく変わり、核家族化や地域のつながりの希薄化が進んだ結果、今日では多くの地域において、子育てを助けてくれる人や子育てについて相談できる人がそばにいないという状態が見られる。このため、自分の子育てに対して戸惑いや不安を感じる事があってもそれをなかなか解決できない現状があるとともに、仕事との両立が難しいという状況もあって、子育ての負担が親、とりわけ母親のみにかかるようになってきている。こうしたことから、「子どもは社会の宝」として、社会全体が家庭における子育てや教育を応援し、支えていくことが求められていると思った。

気づきと変化

昭和では、「地域福祉」（地域でみんなが協力して、誰もが安心して生活できるようにすること）を推進するため、「昭和未来会議」を開催。地域の将来を地域みんな考えていくこの機会に、『地域でこどもを育む知立づくり』を考えていただきたい。その思いで、未来を考える機運が高まる昭和で、まず地域で子供を育むきっかけづくりとして昭和6号公園で【フェスタ de パルケ】を実施。

新地公園でやっている【ちりゅうぶれーぱーく】のような形で、大人と子供の交流の場として考えた。しかし、ちりゅうぶれーぱーくは、子供自身の自主性・やり抜く気力・創造力・思いやりを育むもので、地域にこだわってはいなかった。『地域でこどもを育む知立づくり』は、地域で子供を育むことになり、地域が深く関わっていくことから部外者の私たちが、実施することは、地域との連携、協力が重要であることに気づく。子供たちは、国籍関係なく、楽しそうに遊び、また来たいと言ってくれた。

期待と今後への活かし

今後、地域を巻き込んで、「子どもは、社会（地域）の宝」と思い、温かく子供たちを見守ってもらいたい。いけないことはいけない！危ないことは危ない！と言ってあげられるような関係を築き、地域で子供を育てていきたい。

今は、昭和だけだが、全市に広がっていくことを期待する。そのためにも、昭和6号公園で、引き続き、調査・研究する必要があると思われる。

近森政己 ・ 宗教法人職員 ・ 50 歳 ・ 市内在住 2 年**参加理由**

2 年前に知立市に転勤してきました。愛知県には 10 年以上居住しながら、知立市のことは名前ぐらいしか知らず、どのような歴史があり、現在どのような街であり、将来どのようなまちづくりを目指しているのか、とても興味を持っていた時(転勤直後の 2 年前)に、広報誌に「まちづくり委員会」の公募があり、「市外の人が何度も訪れたいくなるまちづくり」のテーマのグループであれば、「市外の人」の視点から少しでもまちづくりに携わっていけると思い、委員会に応募しました。平成 27 年度のまちづくり委員会を土台として「知立観光 PR プロジェクト推進会 GO いっしょ」を設立し、現在まで継続して活動しながら、平成 28 年度も違った側面から、まちづくりに関わりを持ち、もっともっと知立市を好きになり、「おらがまち知立！」と誇れるような何かを築いていきたいなと思い参加させていただきました。

気づきと変化 期待と今後への活かし

まずはまちづくり委員の方々が、知立市を良くしようとする意気込みと、それに見合う実行力があることにとても驚きました。知立市の財産はまさにそのような市民がいることだと思います。

今年度は「地域で子供を育てる環境づくり」のためのイベントを 11 月に知立団地で開催しましたが、その過程で団地の外国人が多いという特徴的な事情圏を肌身で感じました。しかしながら確かに身近な地域社会では人種、言語、文化の違いがあるようだが、イベントに参加している子供世代にはその障壁の存在をあまり感じることなく、今後、子供たちの成長に即して多文化共生の地域社会を構築する素晴らしい可能性があることを発見しました。また子供の遊び場づくりのイベントを地域の国籍を超えた親通しが協力し合う共同体を組織化すれば、子育て世代が知立市に定住を願う大きな目玉にもなるのではないかと思います。イベントの成功だけではなく、その過程での協力、協働を価値視しつつ、より大きな知立市の魅力づくりを住民と共に築いていける共同体こそ、まちづくり委員会の目指すものだと確信いたします。

ありがとうございました。

名前 服部 薫

一言コメント 知立市が大好き

参加理由

知立市のことが、もっと知りたいと思い参加した。

まちづくり委員会とはどんな委員会でどんな内容のことを検討し討議する会なのか、まちづくりとはなんと 大きなタイトルの掲げた集まりだろうと思った。知立団地に住む私はこの団地に住んでいる周辺の友達とか趣味のメンバーが私の友人関係であった。愛すべき知立市には名跡の数々もあり昨年末には「かきつばた園」を多くの友人達に案内した。非常に驚いた様子は今でも忘れられない。

東京（世田谷区代田）→名古屋（緑区）→西尾→安城→知立と転々とし、やっと知立に定住できた。転居の理由は主人の転勤だった。「住めば都」の諺とおりどこも快適に過ごすことが出来た。取り分け知立団地周辺は田圃や畠、自然色豊かなところがとても魅力的だ。

気づきと変化

先日「フェスタ de パルケ」のイベントに企画・実行の段階から参加させていただき、東小の校長先生と面談させていただいた折、この企画に賛同を得られたことは大きな喜びだった。この結果多くのご父母や子どもたちも参加してくれ、あそびも楽しんでもらった

期待と今後への活かし

まちづくり委員のメンバーひとりひとりが“知立市に対する思い”が大きく実行力も豊かで今回このイベントに参加でき心より幸せに感じた。この企画を通して、もっともっと知立市を良くしたいと強く思い、今後もまちづくり委員会のメンバーとして活躍したい。

平成 28 年度 まちづくり委員会委員長 あいさつ

第 1 回の委員会で思いがけず委員の皆様の推挙で委員長に指名され、引き受けはしましたが自信は全くありませんでした。

あれから 1 年。本日 市長はじめ市役所の幹部の方々に活動の報告をするにあたって、今までの 19 回の会合のほか、ランプ会と称する会合を重ねて来た活動は、私に様々な経験をさせて頂きました。これは、企画政策課の皆さんと、私以外の 9 人の委員の仲間のご協力とご理解の賜物であります。

有難うございました。

また “フェスタ de パルケ” を、昭和 6 号公園で継続して開催していくことは、全員の確認事項になっています。自治会や学校 P T A（おやじの会）などのご協力を得て、地域ぐるみの年中行事になるまで実行委員会を継続して行こうと話合っています。

話は変わりますが、委員会の募集要項を見直しました。報酬の部分“委員報酬はありません”は今後訂正が必要です。

“現金による委員報酬はありません”とすべきです。私は十分な報酬を頂きました。

それは 今日参加のメンバーと友人になれたことです。72 才の私が新しい友と出会える。しかも孫や子供と同じ年頃の友人ができ、高度成長期 場所は違っても共に生き抜いてきた同世代の方々と友人になれたことです。私にとって十分すぎる報酬です。

委員長の挨拶の心算が、私個人の挨拶になってしまいました。

もう一度 有難うございました。

平成 28 年度知立市まちづくり委員会

委員長 伊東 肇